



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第2部
Author(s)	池上, 二良
Relation	池上二良採録・訳注, ウイルタ口頭文芸原文 = Uilta oral literature : a collection of texts. 増訂, 大阪学院大学情報学部, 2002, vi, 149p., (科学研究費補助金(特定領域研究(A))研究成果報告書, 環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究), (ELPR publication series, A2-013), (ツングース言語文化論集, 16).
Citation	ツングース言語文化論集, 16, 107-137
Issue Date	2010-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56955
Type	report
File Information	05parttwo.pdf



第 2 部

まえがき

第 2 部に収録するウイльта語テキストは、ウイльтаの思い出話(1)や昔話(2-4, 追加 16)と歌(5-15)である。これらは 1990 年から 92 年にかけてサハリンにおいてウイльтаの下記の方がた(いずれも婦人)から採集した。しかし、これらの方がたはすべてすでに亡くなられた。御冥福を祈る。

小川ハツ子さん ポロナイスク市在住。1925 年、ワーレーッタ(Waaleetta)氏族に生れる。

金ナツ子さん ポロナイスク市在住。1924 年生れ。母はダーヒンネーニ(Daaxinneeni)氏族。

セミョーノワ・オリガ・ニコラーエヴナ(Semenova Ol'ga Nikolaevna)さん ワール在住。1910 年ガラマイ(ウイльта名 Gəraməi, ロシヤ名 Goromaj)川沿岸の地に生れる。バヤウサ(Bajausa)氏族。

ミヘーエワ・マリーヤ・ステパーノヴナ(Mikheeva Marija Stepanovna)さん ワール在住。1912 年トイミ(ウイльта名 Təəmə, ロシヤ名 Tym')川河口近くの地で、ゲーッタ(Geetta)氏族に生れ、バヤウサ(Bajausa)氏族に嫁す。

セミョーノワ・アンナ・ワシーリエヴナ(Semenova Anna Vasil'evna)さん ネクラソフカ在住。1919 年ナビリ(ウイльта名 ŋaabbēla, ロシヤ名 Nabil')に生れる。ムイガッタ(Muigəttə)氏族。

このテキストは、カセットテープに録音したものを音韻表記によって表記したものである。なお、ロシヤ語もまじっている。録音されている言語音声はできる範囲ですべて表記することにし、話し手の言い誤りやまわりの人へ発することばも、また、まわりの人が話し手に発する質問などのことばもテキストに記入した。テキストには日本語による逐語訳をそえてある。訳文中の()内は補足や説明である。なお、意味がまだ不明の語などは訳の欄を空白にしてある。

テキストの表記において、斜体ローマ字の部分は、その語の明確な発音では発音されるが、略して実際には発音されなかった部分である。なお、t のあとで i や ě が省略されている ti, tĕ は、その部分が省略されない語形では、それぞれ ċi, ċĕ となる。

また、[]のなかは、歌をうたう上でその語の通常の発音より特に音を長くのばした部分である。

下線を引いた部分は、ロシヤ語であり、ロシヤ字をローマ字に翻字して記してある。

()のなかは、言い誤りや言いかけて途中でやめた発音や内容に直接関係のないことば、たとえば聞き手への質問などである。

[]のなかは、話し手のまわりの聞き手が発したことばである。

…の部分は、小声か、不明瞭な発音で音がききとれない部分である。

歌謡(5-15)においては、一編の歌はほぼ同じ旋律のくり返しで歌われている。5-8 は、大きな間隔をおいて記された各句が、また 11, 15 は各行が、ほぼ同じ旋律で歌われている。一方、9(daaji siirokku 以下の 4 行を除く)、10, 13, 14 は、第 2 行のかしらをさげて記してある 2 行ごとに、12 は、第 2, 3 行のかしらをさげて記してある 3 行ごとに、ほぼ同じ旋律がくり返されて歌われている。その旋律は、歌によって、または歌い手によって異なる。

5-14 の歌は、おとなの間で歌われるものである。ウイльтаの歌謡には、ある一定の折り返し句をとまなうハーガ(xəəgə)という歌のジャンルがあり、やはり成年者の歌

であるが、5－14の歌は、その折り返し句がなく、これとはまた別のジャンルの歌である。5－10の歌は、内容からみて、叙情歌とよんでおく。15は、子もり歌であり、幼児に向けて歌われる。

録音の表記にあたって、ウイльта語については、語り手、歌い手のほか、ウイльта婦人のイ・ヤ・フェジャーエワ（I.Ja.Fedjaeva）さん、エ・ア・ビービコワ（E.A.Bibikova）さん、小川ウメさん、北川アイ子さんの助力をえたこと、ロシア語についてもロシア語を話す幾人もの方がたの助けをえたことを記して謝意を表わす。

1. くま祭りの思い出

M.S.Mikheeva 口述

(gorom)	goropčinne	uulta	uulta	bəjəŋŋəəri		
	むかしの人の	ウイльта	ウイльтаは	自分たちのくまを		
waapissaa	xupiddukki	biččiči	kadaara	dukkoo	anduwaččeeri	
殺して	くま祭りの遊びをして	いた、	大きい	家を	つくり	
aundakkoo.	daaji	dukkoo	anduwaččeeri	tari	dooduni	xuppiči.
円錐形家屋を。	大きい	家を	つくり	その	なかで	かれらは遊ぶ。
xurigaččiči.		musinjiči	musimba	[雑音]	goropčinne.	
かれらはくま祭りをする。		寄せものをつくる、	寄せものを		むかしの人は。	
gə	čowoččeeri	čəŋŋoori	anničee.		girapsaani	
さて	そして	自分らのそれを	えーとかれらはあれする。		その骨を	
dəptupissəə	(boo boo)	mootoi	siwwiči	girapsaa	čipaal	da.
食べると		棒へ	かれらはつき通す、	骨を、	全部	ね。
əsiči	məətəlləə	xailadda	xoottoidda.	ətəxuwaččeeri		
かれらは捨てない		どこへも	どちらへも。	大切においておき		
ətəxuwaččeeri	čəŋŋoori		ətəxuwaččeeri	čəŋŋoori		
大切においておき	自分らのそれを		大切においておき	自分らのそれを		
guluččiči		anu	ikpəə	iwakkačči		
かれらはいぶしてすす色にする、		えーとあれ	たき火を	たき		
bookki.	čowoččeeri	pəuləmbə	anduwaččeeri	lokkeetči	čaa	
そとで。	そして	もの置き台を	つくって	かれらは掛ける、	その	
girapsaŋŋoori.	tari	pəjjeekkeeni	annukkil.	ikpəə		
自分たちの骨を。	その	下で	えーとあれする。	たき火を		
iwambukkil		guluptubuddəəni		guluptubuddəəni.		
たく、		いぶしてすす色になるように		いぶしてすす色になるように。		

tariŋuči かれらのそれは	anu えーとあれ	pakkam まっ黒く	gulupčini いぶされてすす色になる,
tariŋuči かれらのそれ	bəjəŋuči. かれらのくまは。	bəjəŋuči かれらのくまの	girapsaani 骨を
girapsaani 骨を	dəptəəččeeri 肉を食べてから	(loo…)	looŋjiči. 掛けてもとの形にする。
looŋjiči かれらは掛けてもとの形にする,	uisəi. 上へ。	xuppiči. かれらは遊ぶ。	nooči かれらは
			čadu そこで
xurigaččiči. くま祭りをする。	pəččəŋəsiti. かれらは飛びはねる。	tuksauriči かれらは走らせる,	ulaaji. となかいで。
goropčinnee むかしの人は	čaraŋači そのようにして	(biu)	biččiči いた,
			bii わたしの
			nuuči 小さかつ
biŋəsseewwee. たころ。	čaa その(ことを)	sulaa なんとか	saariwi わたしはおぼえている,
			čaa その
biččimbəči. かれらがそうしていたことを。			

2. オンゲーガ¹⁾

M.S.Mikheeva 口述

(wa)	geeda ひとりの	oŋgeeŋa. [oŋgeenu] オンゲーガ。	əə ああ	geeda ひとりの	nari 人が	ŋəŋəxənee. 行ったよ。
ŋəŋəxəni. かれは行った。	ŋəŋəxəni. かれは行った。	čaa その	narree 人を	dapaxani つかまえた,	tari その	
oŋgeeŋa. オンゲーガが。	gə	dapaxanduni それがつかまえたとき	anu えーとあれ	anu えーとあれ		
anu えーとあれは	təəxəni こしかけた,	toowo 倒木の	ojoduni. 上に。	toowo 倒木の	ojoduni 上に	təəgətči こしかけ
oŋgeeŋa オンゲーガの	baaruni 方へ	urabi 自分のしりを	tupəm すっかり	somboligačči 脱いで		
təəxəni かれはこしかけた,	čadu. そのとき。	sinjeeni それが来る	baaruni 方へ	sinjeewani それが来るのを		
itəgəčči 見て	laxəə 近く	osiduni なると	nari その人は	poos プーッと一気におならをして	amuččini. 大便をした。	

tari その人が	amunʃiduni 大便をするとき	uččini. かれは言った。	əə 「ああ	kitaree ちきしょう	xai なんの
ambattaini ばけものと	xuppiwəə おれたちは遊ぶんだ。」	ŋokkee 「くさいなー	ŋənnisəə 帰ろう」 と		
uččiči. かれらは言った。	uččiči. かれらは言った。	čowoččeeri そして	ŋənuwəči. かれらは帰った。		
čowoččeeri そして	ŋənuwəči. かれらは帰った。	ŋənuwəči. かれらは帰った。	ŋənuwəči. かれらは帰った。		
ŋənuwəči. かれらは帰った。	tari その	nari 人は	duktakki 自分の家へ	ŋənuwəči. 帰った。	oŋgeəŋa 「オンゲーガは
ələə もうすこしで	waaxani 殺すところだった」と	unʃini かれは言う、	mimbee. 「おれを。」	čowočči そして	
suddəakki 「あくたれ	maŋee め」 と	unʃini 言う、	tari その	oŋgeəŋa. オンゲーガは。	narree 人を
					waaʃil. それは殺せる。
tari それは	ələni おわり、	čar それは	čar それは	čar. それは。	[vse konec] おわり

1) オンゲーガ(oŋgeəŋa)は魔女。顔はきれいだが、まゆ毛がない。人間を殺す。オンゲーガにつかまったが、大便をしてそのにおいてオンゲーガが断念してたすかった話。

3. 老人のつくってくれた舟で無事帰った漂流者¹⁾

A.V.Semenova 口述

duu ふたり	duu ふたりの	nəumunə 兄弟が	nari 兄弟が	joosondooči. あざらしとりに行った。
joosondooči あざらしとりに行った、	ěto これは	okhotit'sja (ロシア語で)	na あざらし	nerpočku 猟に
poekhali. かれらは行ったってことだ。	joosondooči. あざらしとりに行った。	čowočči そして	oj あれっ	(…
ne nado 必要ない	ne nado 必要ない	pust' かまうな	oj あれっ	kak. ²⁾ なんて言ったつけ。
duu ふたりの				
nəumunə 兄弟が	nari 兄弟が	namutai 海へ	(ŋənə…)	ŋənəəči 行った、
pəəttəə あざらしを	waəŋdamari. とりに行くため。	i そして	tuman 霧	tu 霧
			tuman 霧	(a

oj ot menja to) tuman tu tuman. [tamna] (dajte snačala i.)
 あれっ 霧 霧 霧 はじめから言ってよ。

[tamna]³⁾ duu nəumunə nari ŋənəəči pəəttəə pəəttəə
 霧 ふたりの 兄弟が 行った、 あざらしを あざらしを

waandamari. i əto tamnaska tamnaluxani. i nooči
 とりに。 そして 霧が かかりはじめた。 そして かれらは

miigəči. čowočči ŋənəəči. ŋənəəči. i anu
 迷った。 そして かれらは行った。 かれらは行った。 そして えーとあれ

(ba) ostrov kak ostrov. (vot satana oročenskij)
 島 なんて言ったつけ 島。 ほら 悪魔め ウイルタの、

elki-palki ... n...)⁴⁾ buwaata buwaata. əto
 こいつはしまった ... 島 島だ。 これは (ロシア語で)

ostrov. buwaattai ŋənəəči. i čadu geeda əəktəə
 島。 島へ かれらは行った。 そして そこで ひとりの 女に

baagači. tari tari əəktə noomboči noomboči xəwəčixəni.
 かれらは会った。 その その 女は かれらを かれらを 呼んだ。

tari oŋdo biččini. oŋdo əto čert.
 それは オンド だった。 オンド これは (ロシア語で) 悪魔だ。

i a a i tari narisal ŋəələluwəči noonjiti čaa
 そして そして その 人たちは こわくなりはじめた、 かの女が その

əəktəji. i goti ŋənəəči ugdaži. ŋənnəeči.
 女が。 そして また かれらは行った、 舟で。 かれらは行く。

ŋənnəeči. (p) opjat' baagači naawa. naatai tam
 かれらは行く。 ふたたび かれらはみつけた、 陸を。 陸へ そこに

xaakčiči čadu. a tam čadu duku biini.
 かれらは舟をつける、 そこに。 そして そこに そこに 家が ある。

a čadu dukuduu geeda mapa nəəxəni. a
 そして そのとき 家から ひとりの じいさんが 出てきた。 しかし

buu jeesilpu ŋəəlleəči čaa mapaji. jəə⁵⁾
 わたしたちの なかまたちは こわい、 その じいさんが。 この

mapa unjini. əjje ŋəəlləə, bii bii bakkaa suu
 じいさんは 言う。 「こわがるな。 わし わし も あんたらと

əččisu nari bii. unjini tari mapa. gə mapa
 同じ 人間 だ」 と 言う、 その じいさんが。 さて じいさんは

noomboči xəwəčəxəni duktakki. i čadu dəpəəččini
 かれらを 呼んだ, 自分の家へ。 そして そこで 食べさせた,
 noomboči. goro biččiči nooči čadu. potom tari mapa
 かれらを。 長く いた, かれらは そこに。 それから その じいさんは
 kəə anu čimai gəgdək wəədəptukki səksədələndə. tari
 さあ えーとあれ 朝 いつも いなくなる, 晩までだと。 その人は
 tunda inəŋi ili nuŋu inəŋi a da purəndu biččini tari
 五 日 か 六 日 しかも やまに いた, その
 mapa. a a mununijjəə əsiči saara nu tari
 じいさんは。 しかし わしらの者たちは わからない さあ その人が
 xaikki pulisiwəni. čowočči a geedara čimai itəxəni.
 どの辺を 歩いているかを。 そして そして 一度 朝 かれは見た。
 əččini undə noottoiči xaiwadda. potom (xəwəči) xəwəčixəni
 かれは言わなかった, かれらへ なにも。 それから 呼んだ,
 tari narilba. unjinində. annoo ugdamba
 その人は 人らを。 かれは言うんだと。 「えーとあれを 舟を
 gaduxambi duubə. suu əsi duktakkeeri
 わしは持って来た, 二そう。 あんたらは いま 自分たちの家へ
 ɲənniri ɲənurisu unjini. ugda dooduni dooduni an
 帰るのだ」 と かれは言う。 「舟の なかに なかに あの
 təəssəərisu. unjini. (ni tə) nu (akpam) akpanusu
 あんたらすわれ」と かれは言う。 「さあ (akpam) あんたらねろ。
 … i esli nari kəssəəni (dool) dooljimarī unjini.
 そして もし 人の 話しごえを 聞いたとき」 と かれは言う。
 əjjeesu əjjeesu anu jilleeri əurree.
 「あんたらするな あんたらするな あの 自分のくびを もたげることを」 と
 unjini tari mapa. čowoččeeri tarisal ɲənuwəči. o tom
 言う, その じいさんが。 そして その人たちは 帰った。
 yse smejut oj inəsiči. èto … narisal
 みんな 笑っている あれっ。 かれらは笑っている。 これは … 人だ。
 kak budto nu tari buu jeesilpu dooljiči
 さあ その人ら わたしたちの なかまたちは 聞く らしい,
 kəssəəči. geulliči ešče. ɲənnēči.
 かれらの話しごえを。 かれらはいいをかく, なおも。 かれらは行く。

ɣənnneeči. ɣənnneeči. ɣənnneeči. poka ɛto anu
 かれらは行く。かれらは行く。かれらは行く。 「当分 これ えーとあれ
 naa naa ugda ugda əččeeli annooduni əjjeesu
 陸 陸 舟 舟が まだ えーとあれしないうちは あんたらするな
 əjjeesu annoo. unjini. ne oj
 あんたらするな えーとあれを」 と かれは言っていた。 「 あれっ
 ne ševelit'sja. (笑い声) … oj xooni. ugdasu
 身動きをするな。 あれっ どのように。 あんたらの舟が
 naa giritai a an … oj giritai (anuwa)
 陸 浜へ あ あの あれっ 浜へ えーとあれして
 anuutaččee (xaawu) xaagduutaččee togda
 えーとあれしてから (着いてもどってから) そのとき
 təədussəərisu. unjini. a nooti xaakčiči.
 あんたらはおきろ」 と かれは言っていた。 そして かれらは 舟をつけた。
 nari anaa čadu. a a tari mapa ooronnee
 人が いない, そこには。 ああ そして あの じいさんが すこしまえに
 (noomboči) noottoiti uččini. mapa unjini. duktakkeeri
 かれらへ 言った。 じいさんが 言うのに, 「自分たちの家へ
 aaptupissaa mittəi duubə ulaaba waagaččeeri ugda dooduni
 着いたら わしへ 二匹の となかいを とり 舟の なかに
 əksəssəərisu geedamba. geeda taagda. staršij oj aagduma i
 おまえら置け, 一匹を。 一匹は 白い。 年上の あれっ 兄の方
 staršij aagduma taagda ulaaba waarini. nəudumə
 年上の 兄の方は 白い となかいを とる。 弟の方は
 peemura. nu oj anu aaŋni ɣənəxəni
 つらがまだらのとなかい。」 さあ あれっ えーとあれ 兄は 行った
 taani. ulaa baraa. (ta u) taagda ulaaba
 だろう。 となかいは 多い。 (た う) 白い となかいを
 dapaxani. waaxani. əksəxəni taani ugda dooduni. a
 かれはつかまえた。 殺した。 置いた だろう, 舟の なかに。 しかし
 nəuni əččini bakkaa peemura ulaamba. nooni
 弟は みつけられなかった, まだらづらの となかいを。 かれは
 saarimba waagatči əksəxəni. čowočči tari ugdamba anaači.
 黒いのを 殺して 置いた。 そして その人らは 舟を 押しはなした。

(…) a nooni nooni isuxani. ugda ilaalta xərəlixəni.
そして かれは かれは 帰って来た。 舟は 三回 まわった。

a aaŋni əto (jəə) svoemu devjat'
そして 兄は、 これは 自分のことばで(ロシア語で) 九

po-našemu xuju (je) xujultə xərəlixəni. krug dal
わしらのことばでは 九だ、 九回 まわった。 円を かいたことだ、

i əto. a potom tari nəudumə ilaamba
これは(ロシア語で)。 そして それから その 弟の方は 三

ananee (but) biččini. čowotči nooni buččini. a aaŋni
年 (but) 生きていた。 そして かれは 死んだ。 しかし 兄は

xujumbə ananee biččini. biččini. sama sama sama
九 年 生きていた。 生きていた。 巫者 巫者 巫者に

oččiči duutəŋəsə. čowočči a čadu giridu
かれらはなった、 ふたりとも。 そして そして そこに 浜に

puril tuksakčeeči duu puttə xusə puril.
こどもたちが 走りまわっている、 ふたりの こども 男の こどもたちが。

da aaŋni xəwəčixəndə purilbə, sii suu ŋui
da 兄が 呼んだんだと、 こどもたちを。 「おまえ おまえら だれの

purilni. amiččii əniččii biinii. unjiči. ii
こども。 父 と 母は いるか。」 かれらは言う。 「はい」 と

unjini. bii buu amippu namutai ŋənəččeeri
こどもが言う。 「おれの おれたちの 父は 海へ 行って

miigəččeeri əččiči issoo. unjini. (ət) əččiči issoo.
迷い 帰って来なかった」 と 言う。 「帰って来なかった」 と

unjini. (əi) gə čowoččeeri tari aaŋni unjini. suu
こどもが言う。 (əi) さて そして その 兄が 言う。 「おまえら

duktakki ŋənnusu. ənitəkkeeri unusu. čtoby
自分の家へ 帰れ。 自分らの母へ おまえら言え。 つぎのようにするため

anu siduli siduli dugdu əbuddəəni bee
えーとあれ 行者にんにく 行者にんにくが 家に おいてないようにするため

məətələssəərisu. unjini. (ponjali.)⁶⁾ siduli
おまえらすてておけ」 と かれが言う。 あんたわかったか。 行者にんにく

po-našemu əto luk i čtoby dugdu
わしらのことばで これは luk ねぎ。 i つぎのようにするため 家に

<u>əbuddəəni</u> ないようにするため	<u>əbuddəəni</u> おいてないようにするため。	<u>bee.</u>	<u>oni</u> かれらは	<u>prišli.</u> 来た。		
<u>a</u> しかし	<u>čadu</u> そこでは	<u>nooči</u> ほかの人らが	<u>rodstvenniki</u> 血縁者たちが	<u>mamaŋulbači</u> かれらのつれあいを		
<u>gaččiči.</u> めとっていた。	<u>puril</u> こどもら	<u>ešče.</u> もさらに。	<u>a a</u> そして	<u>geeda</u> ひとりが	<u>kučigəmbi</u> 自分の小刀を	
<u>daparraa</u> つかんで	<u>nəəduxəni</u> 出て来た、	<u>geeda</u> ひとりの	<u>nari.</u> ⁷⁾ 人が。	<u>(noo)</u> かれらは	<u>duutəŋəse</u> ふたりとも	
<u>ŋənuwəči.</u> 帰った。	<u>puttəddəəči</u> かれらの子にするため	<u>nooči</u> かれらは	<u>əto</u> これ	<u>vmeste</u> いっしょに	<u>oj</u> あれっ	<u>ŋui</u> だれ
<u>mamaŋuldoori</u> 自分のつれあいと	<u>gəsə</u> ともに	<u>kamur</u> いっしょとなり	<u>otuwači.</u> もとどおりになった。	<u>konec.</u> おわり。		
<u>oni</u> かれらは	<u>i</u> また	<u>stali vmeste žit'</u> いっしょに暮らしはじめた、	<u>sem'ja ikhnjaja.</u> かれらの家族が。	<u>[ələ]</u> これで全部。		
<u>ələ.</u> これで全部。	<u>[ələ]</u> これで全部。	<u>ona</u> 家族は	<u>bol'se.</u> さらにふえ、めでたし、めでたし。			

- 1) この話は、『川村秀弥採録カラフト諸民族の言語と民族』(北海道教育委員会・網走市北方民俗文化保存協会 昭和 58 年) 58-61 ページにも、ギリヤークとオロッコから川村氏が採録した 2 編がのり、また山本祐弘著『北方自然民族民話集成』(東京 相模書房 昭和 43 年) 16-22 ページにも、同氏がウイльтаの北川五郎氏から採録した 1 編がオロッコの民話としての。しかし、話の細部は異なる。いずれも日本語で記されている。
- 2) ウイльта語が口からすら出ずこまっている。
- 3) ここでウイльта語の霧の語が思い出せず、話がすすまない。waanđamari から duu までの間ことばがとぎれて 1 分近くが経過した。聞き役の池上が思いあまって tamna (霧) と言っている。
- 4) ウイльта語の buwaata (島) の語がなかなか思い出せずにいる。
- 5) jəə (この) のかわりに əri (この) とあるのがいいだろう。
- 6) 聞き手の池上へ気を配っての質問。
- 7) 井上絃一氏が聞いたところによると、死んだと思った兄の妻と結婚した弟が殺されるかと思いい、小刀をもって出て来たのだという。ウイльта族でもおこなわれるレヴィレート婚の 1 例といえよう。

4. 石になった妻

O.N.Semenova 口述

<u>gə</u> さて	<u>nari</u> ある男が	<u>duuži</u> 二人	<u>mamaŋulu</u> つれあいをもって	<u>biččini.</u> いた。	<u>nuljixəni.</u> 引越しをした。
-----------------	---------------------	--------------------	-----------------------------	------------------------	------------------------------

ɲənəxəni unnee soloi. a tak gora gora duwweetəini adautai.
 行った、 川を 川上へ。 そうして 山 山の おくへ アダウ川へ。

əri bara ryby ndaxani. ¹⁾ [xurəə tawweetaini] xurəə
 これは たくさん さかな …しに行った。 山の 向こうへ 山の

tawweetaini. xurəə gora uččimbi. ga
 向こうへ。 山を (ロシヤ語で) 山と わしは言ってしまった。 さて

ɲənəxəni. ga geeda mamaɲuni poroktuuluxani.
 行った。 さて ひとりの つれあいが わがママをしだした。

əsini təərə. aundakkoo anduwačceeri (tə) aundagači. geeda
 起きない。 円錐形家屋を つくって 泊まったのだ。 ひとりの

molodoj mamaɲulu geeda sagji mamaɲulu. gə sagji
 若い つれあいと ひとりの 年とった つれあいとで。 さて 年とった

mamaɲulu aurini. [duuji asilu.] aurini.
 つれあいはい 眠っている。 ふたり 妻をもっている。 眠ったままだ。

duuji asilu. (ii.) ²⁾ ʃə aurini. aurini.
 ふたり 妻をもっている。 そうだ。 さて 眠りつづける。 眠りつづける。

aurini. čii əsini təərə. gə təəru. əsini təərə.
 眠りつづける。 ずーっと 起きない。 「さて 起きろ。」 起きない。

gə čii owočči dolbojjillaa. ɲənneelapu.
 さて ずーっと して 「間もなく夜になる。 おれたちは行く。」

xəməə xəməə xaiwadda əsini undə. iidda aadda
 だまったまま だまったまま なにも 言わない。 うんとも すんとも

anaa. ɲənəxəni. ulaaba wəədəxəni nəəmə
 言わない。 かれは行った。 となかいを かれはおいて行った、 騎乗用くらを

məgdəmbə xaktaani. ɲənəxəni. aaptuxani
 つけたまま 雄となかいを。 かれは行った。 かれは着いた、

annoo kuʃəə kuʃəə ɲaəɲɲooni. taatawa adau
 えーとあそこに クジャー クジャー 川に。 あこそを アダウ川を

soloi waalu ³⁾ soloi kuʃəə ɲaəɲɲooni aaptuxani.
 川上へ ワール川を 川上へ クジャー 川に かれは着いた。

aundaxani. dugji čipal andučini aundakkoo.
 泊まった。 自分の家にするのに 全部 かれはつくった、 円錐形家屋を。

(akpat ak) akpakkačceeri čimai siir təəgəni. o ɲənneesu.
 かれらは寝て 朝 はやく 起きた。 「さあ 行こう。」

sərruuččini mamaṇubi. anaa əsini seetosi.
 起こした、 自分のつれあいを。 いや かの女はちつとも動かない。

xaixakka. nooni buččini xaixanneejjuu. anaa
 どうしたか かの女は 死んだのか どうしたのかしら。 いや

liisini ooronnee dolbo. gə oo
 いびきをかいている、 先刻 夜。 さて さあ

ɣənətəəl. xaktaani wəədəgəči
 かれらは行っちゃったのだ。 雄となかいを かれらはおいて行った、

nəmə məgdə. ɣənəgəči geeda mama (asi)
 騎乗用くらを つけたまま。 かれらは行った、 ひとりの つれあい

purigəndumə asimuna purigəndumə asijjəə. (ponimaeš.)
 若い方の 妻と、 若い方の 妻ともども。 おまえわかるか。

[ponimaeš. saarini. saarini.] (saarinda.)⁴⁾
 おまえわかるか。 かれはわかる。 かれはわかる。 かれはわかるんだと。

gə purigəndumə asimuna ɣənəxəni. (o radio somindau.)⁵⁾
 さて 若い方の 妻と かれは行った。 おー ラジオ とめに行け。

gə ɣənəxəni. gə aaptuwači. aaptuwači annoo.
 さて かれは行った。 さて かれらは着いた。 着いた、 えーとあそこに。

ooronnee unini naa gəlbeəni xooni uččimbi bitəə,
 さっき その川の 土地の 名を どう わしは言った のだったか。

kujəə uṇaəṇṇooni aaptuwači. oo moonuṇji annoo
 クジャー 川に かれらは着いた。 さあ 自分の棒で えーとあれを

aundakkoo andubuṇji seesiṇṇee gəlbeeni.⁶⁾ mamaṇuni
 円錐形家屋を つくるため 骨組みの棒を かれは切る。 かれのつれあいは

anaa. əsini sindaa goroo goroo. gə təgəə
 いない。 かの女は来ない、 いつまでたっても。 さて

guigətči dukkoori andučiči. akpaččiči.
 家のおおいをかけ 自分たちの家を かれらはつくった。 かれらは寝た。

anaa əččini akpanda. ɣənəxəni. itəndəduxəni
 いや かれは寝なかった。 かれは行った。 見にもどった、

mamaṇubi. ɛto peryyji mamaṇuni bičči
 自分のつれあいを。 これは 最初にめとった かれのつれあい であった、

staryj. ɣənəxəni. ulaabi čiiččini. məəno
 年寄りの。 かれは行った。 となかいを かの女は放してあった。 自分は

mama	əsigdəə	(čər)	tari	ǰoloŋuči	čəəwut	oččini	gəgdək
つれあいは	いまや		その	かれらの石は		…た。	いつも
čəəwuččiči.			əri	sinaxudu.		sinaxudu	
かれらは供えものをしている。			これは	シナホド氏族だ。		シナホド氏族が	
biini	ǰədu.	ŋui.	<u>Len'ka</u>	əmuukəə	goči.	<u>odin</u>	
いる、	ここに。	だれが。	リョーニカが	ひとり	ね。	ひとり	
<u>odin</u>	<u>čelovek</u>	<u>tol'ko</u>	<u>ostalsja</u>	sinaxudu		<u>Len'ka.</u>	
ひとりの	人が	ただ	残ったのだ、	シナホド氏族が、		リョーニカが。	
e	e	ěto	tarisal	pooči.	[…]	bii	xanđami
えー	えーと	これは	その人たちの	血縁者だ。		わしは	どうして
sinaxudu	sinaxudu		balǰixambiga.			<u>tol'ko</u>	
シナホド氏族、	シナホド氏族に		生れたか。(わしじゃない)			ただ	
ənəkə	sinaxudu	biččini.	sinaxudu	puttəni.			
かあさんが	シナホド氏族	だった。	シナホド氏族の	子だ。			
patalaŋuni.	uul	maŋga	mapala	puttəni.	gə	čowočči	
むすめだ。	ウール	マンガ	じいさんからの	子だ。	さて	そうして	
waalutai	əuduxəni.		aajiltaini	uččini.			
ワール川へ	かれは下つてもどった。		かの女の兄たちへ	かれは言った。			
anagəə	pundadusu	čup.		gələdumi			
「いないんだ、	あんたらの妹は	すがたを消して。		さがし出すことが			
albaxambi.	əččimbi	bakkoo.		gə	ǰolloo		
おれはできなかった。	おれはみつけられなかった。」			さて	「石を		
baaxambi	uččini	ǰolloo.	geeda	ǰolo	mootoi		
おれはみつけた」	と かれは言った、	「石を。	ひとつの	石が	木へ		
peeččilagačči	əraŋəči	təəsini	ǰolo	<u>kamen'.</u>	(ǰolloo		
よりかかって	こんなように	すわっている、	石が	石が。」	石が。		
utullisii. ⁹⁾	eeji.	ǰolo	oččini.	gə	čii		
あんたわかるか。	あれあれ。	石に	かの女はなった。	さて	ずーっと		
gəgdək	məətəččiči.	dəppee	gami	arakkee	olbimari		
いつも	かれらはなげ与えている。	食べ物を	買い	酒を	もって行って		
əwweedu	waaludu	olbimari	čəəwuččiči	čala.			
こっちに	ワール川に	もって行って	かれらは供えている、	そこに。			
anu	goropčinne	xaalanda	musimba	musikkaččeeri	čala		
えーとあれ	むかしの人が	ずっとまえ	寄せものを	つくって	そこに		

<u>Ikévké.</u> イケフケは。	[adau ... アダウ川	jolloo] 石を	a え	[xurigəndu tuu xur...] 山に		
xurigəndu 山に	xurigəndu 山に(あって)	taatari 遠くのそれは	jīŋ 大変	goro. 遠い。	waraska ワラスカ	uŋaa 支流
uŋaa 支流	təktə 断崖の	ojoduni 上に	əməččeeri 本流	uni いや	uŋaa 支流は	jəkki ここを通過して
xəjjeeni 流れている,	tawasai あちらへ	dərəl 川口の上の波のないところ		jəkki ここを通過して		
daarutai 支流の川口へ	unitai 本流へ	waalutai ワール川へ。	gə さて	waraska ワラスカは	gəlbuni その名だ,	
[uŋaa] (t) 支流の	uŋaa 支流の,	(ii) ¹⁴⁾ そうだ。	čadu そこに	biččini. かれはいた。	tari その	nari 人は
aundačixani. 寝泊まりしていた。	tari その	əəktə 女は	jolo 石に	oččini なった,	čadu. そこで。	čowoččeeri そうして
əri だれもが	ŋuiddə 行つて	ŋənəməri 行つて	ugoščali 御馳走をした,	čala. そこで。	arakkee 酒を	
olbikkaččeeri もつて行つて	čala そこに	[xuuljiči] かれらはあける	xuuljiči. かれらはあける。	(də)		
musikkaačči 寄せものをつくり	musimba 寄せものを	əkseeči. かれらはおく。	dəppee 食べ物を	raznye いろいろの		
kašalba 御飯を	xailba なにかを	varigaččeeri 煮て	əkseeči かれらはおく,	čadu. そこに。	ŋussaa はて	
dəpčini 食べるのか	anaa 食べないのか,	tari その	əəktə. 女は。	vot ほら	čaa その	kammenoo 石を
gaduxani. かれはもつて来た。	muzejtəi 博物館へ	buuxəni. かれは贈つた。	əsi いま	məənə 自分のものは		
geedda ひとつも	anaa. ない。	orki. わるい。	naadu 土地に	biččimbə あつたものは	əburi dappaa. とらないことだ。	
grekh. 罪だ。	mundu わしらでは	[suŋnuuli] ばちがあたる	suŋnuuli ばちがあたる,	ənnəuri. ばちのあたることだ。		
[...] (ŋussaa はて	noomboni.) かれを。	[...]	a しかし	lilak リラク	mama ばあさんが	(bul)
bulkutənnēe 死んでから	gaduxanee かれはもつて来たんだね。	goči. その	mama ばあさんが	biččini いたん		

bipee əjiləəni gaddoonda. əsi staryj jolo.
 だったら もって来させなかったろう。 いまや 年とった 石。

[lilak mama ŋui tari.] ačinika noonjini
 リラク ばあさんとは だれ それは。 妻の祖母 かれの,

Ikəvkəijəəŋi. ¹⁵⁾ amičči amičči amini ee amičči
 イケフケたちの。 かれらの父 かれらの父の 父 いや かれらの父の

ənini lilak mama biččini. məəno Katja ¹⁶⁾ gəlbulu. vot
 母が リラク ばあさん だった。 自分は カーチャの 名をもつ。 ほら

tari [xoʃixani] xoʃixani [təəluŋu gəə] gəə tari
 それは おわった おわった, むかしばなしは そら そら その

təəluŋu.
 むかしばなしは。

- 1) ここは完全な文をなしていない。
- 2) 聞き手のひとり M.S.Mikheeva さんがはさんだことばをくり返し言って肯定の応答をしている。
- 3) ワール(地名)。ウイльта名 Waalu, ロシヤ名 Val.
- 4) 聞き手のひとりの池上がわかるかとの質問と応答。
- 5) 隣室で音がしているラジオをとめに行けと言っている。
- 6) クジャー川に来る途中、前の宿営地で年とった方の妻が寝たきり起きないのをおいて来たことが、ここまでに重複して語られている。
- 7) sapsii-は、ロシヤ語の soobščit' (知らせる)をウイльта語の動詞語幹にしたもの。
- 8) ダーギ(地名)。ウイльта名 Daaxi, ロシヤ名 Dagi.
- 9) 池上への質問。
- 10) M.S.Mikheeva さんの発言に対して否定の応答をしている。
- 11) Ikəvkə は I.Ja.Fedjaeva さんのロシヤ字表記による。ただし、ウイльта語の名まえか。
- 12) この人の名を、聞き手の I.Ja.Fedjaeva さん(語り手の娘)や M.S.Mikheeva さんはそれまで知らなかったようである。
- 13) ノグリキ(地名)。ウイльта名 Naxulakka, ロシヤ名 Nogliki.
- 14) M.S.Mikheeva さんが言ったことばをくり返し、肯定の応答をしている。
- 15) 聞き手からの質問への応答。
- 16) リラクばあさんの別名。

5. 叙情歌 1

金ナツ子 口唱

bii ui[i]ltaa[a] patala[a]nee[e].
 わたしは ウイльтаの むすめ。

(aund) siigəni kilto kilto[oo]. ana[a]ni[ii]
 耳かざりが キーラ キラー。 首かざりが

kilto	ki[i]lto[oo].	čaa	naritai[ii]
キーラ	キラー。	あの	人のところへ
ηə[ə]nə[ə]mee[e]		xooni	unjiwigəə[ə].
行って		どう	わたしは言うの。
ilamaugbanee[e].		duu	i[i]laa[a]
はずかしいわ。		二	三
anani[i]du[uu]		taniji[i]mi[ii]	
年のうちに		なれて	
ulingaji	bibuddəere[e].		
しあわせで	あるために。		

6. 叙情歌 2

小川ハツ子 口唱

bii	uilta	patalani[i]k	kə.	məŋumə	siigəmbi[i]kə
わたしは	ウイルタの	むすめ。		銀の	わたしの耳かざりや
suurakta	anaambi[i]kə		kilto	kilto[o].	
玉のついた	わたしの首かざりが		キーラ	キラー。	
čaa	gasattai[i]kə	miirəm	ηənəpeekuu		
あの	村へ	およめに	行ったら		
čaa	nariwa[a]ka	xooni	xəwəččiwiijjuu.		
あの	人を	どう	呼ぶかしら。		
mərəčimiddəəkə	ila[a]mausiwi[i].				
思っても	はずかしい。				
duu	ilaa	ananidu[u]ka	noottoini[i]		
二	三	年のうちに	あの人に		
taniji[i]wi[i]	ulingaji	baljibuddoori[i].			
なれるわ、	しあわせに	暮らすために。			

7. 叙情歌 3

金ナツ子 口唱

[ə]nə[ə]jje[e]	[x]akkaanusalee[e]
ああ	にいさんたちは

xaigakkaligə[ə] どうしたか,	issiwari 帰って来ると	ukkə[ə]ččee[e]ri 言って行って
go[o]rolonee[e]. 長い間。	aundama 冬の	doogdoo[o] ¹⁾ 家で
mambakka[a]ddoočee[e] ²⁾ あなたの手袋を		uttaddoočee[e] ²⁾ あなたのつくを
a[a]ndoomee[e] ³⁾ つくりながら		xalačči[i]wee[e]. わたしは待ってます。
aundau 家の	uttənee[e] 戸口を	niigə[ə]ččee[e] 出て
əwəsəki こちらの方を	tawasakee[e] あちらの方を	ka[a]rga[a]mee[e] 見渡して
xalačči[i]wee[e]. わたしは待ってます。		

- 1) doog-は、家の意味の名詞語幹であろうが、ただし、通常形は dug-である。
 2) mambakkaddoočee, uttaddoočee の-čee(かれらの)は、-see(あなたの)とあるのがよいという。
 3) この動詞の語幹は andoo-とあるが、この動詞語幹の通常形は andu-(つくる)である。

8. 叙情歌 4

小川ハツ子 口唱

akkaanusa(la)li[ii] kə にいさんたちは	purən やまの	baaruni[ii] 方へ
ulaaba[aa] ka となかいを	oroskoondaaččeeri[ii] さがしに行って	
boo 天気が	mangaduni[ii] kə ひどいとき	xooni どう
mərəčimiddə[ə] kə 思っても	meewambi 心が	ənusini[ii]. 痛む。
xaiwaddaa kə[ə] なにも	ittəuri[ii] kə ¹⁾ みえず	biičijjuu[u]. しているかしら。
puundə[ə] 地ふぶきが	manga. はげしい。	miigəčixəčijjuu[u]. 道に迷ったかしら。

(ulinga) čawa²⁾ saagačči[ii] kə mərəčixəčči[ii]
 それ(無事)を 知って ほっとし

aldoo kaa[a] ka saagačči[ii]
 便りを 知って

ulingaji mərəččiwi[ii].
 安心 しています。

- 1) ittəuriji は否定の意味をもつと歌い手は説明してくれたが、筆者はまだ分析ができていない。
 2) さきにひとりがもどって皆無事でいるのを知せたことが歌詞で省略されている。

9. 叙情歌 5¹⁾

O.N.Semenova 口述

taagda gaunai ojodu[u]nee xala[a]čiluxa biččinee
 白い 丘の 上に かれは(しかたなく)待って いたのね

go[o]roo ənənəə. ə[ə]ččini xalaččee.
 長い間 きのどくに。 かれは待てなかったのね。

biiddəə əsiwi xalaččee. duktakki ɲənni[i]ləmi. suuŋubi
 わたしも 待てません。 家へ 帰ります。 お日さまが

tuuddəəkkəə. ə[ə]sibi xalaččee.
 落ちかかっています。 わたしは待てません。

(daaji sirokku) [əjje jəlləndə ənnə.] (笑い声) [daaji…]
 九月 だめよ うそ言っちゃ、 かあさん。 大きい

(daaji daaji gaunai ojodu[u]nee taagda. jəllə. ……
 大きい 大きい 丘の 上に 白い。 うそだ。

xaŋŋaasai ɲənnəumi. na[a]mu[u] goraduni taagda gaunaxi biini.
 まちがえ させて。 海 山に 白い 丘が ある。

əsi bee.) [jəllə.]²⁾
 そうじゃないか。 うそ。

[taagda gaunaxi ojoduniga.] (ii.) xala[a]čiluxa
 白い 丘の 上にだわよ。 そうだ。 かれは(しかたなく)待って

biččinee go[o]roo ənənəə. biiddəə əsiwi xa[a]laččee.
 いたのね 長い間 きのどくに。 わたしも 待てません。

duktakki 家へ	ḡənni[i]ləmi. 帰ります。	suuḡubi お日さまが	tuuddəəkkə. 落ちかかっています。	ə[ə]ləxə これで十分で
	taanee. しょう。	ə[ə]lə[ə] これで十分	jaajjeewi. わたしが歌うの。	
anda[a]xa[a]sal お客さんたち	doolḡusuu 聞いてください	bii わたくしの	jaajjeewawwee. 歌うのを。	<u>poslednij</u> 最後の
	<u>golosi</u> bi わたしの声	taanee. でしょう。	sagda[a]mida 年とって	xoḡixa. しまった。
gə さあ	<u>yse</u> おしまい。	[anaa] 最後じゃないよ		

- 1) 若い男女のデートが行きちがいになった歌。
 2) daaji siirokku からここまでは、歌詞をまちがえ、聞き手の I.Ja.Fedjaeva さん(歌い手の娘)から注意されるが、また二度まちがえるなどの聞き手とのやりとり。

10. 叙情歌 6¹⁾

O.N.Semenova 口述

so[o]roḡee ようこそ	soroḡee. ようこそ。	a[a]ja[a] よき	naalbaa ²⁾ 人らに	a[a]ja[a] よき	narilbaa 人らに
	əri これに	baaččiwee. われは出会う。			
so[o]roḡee ようこそ	soroḡee. ようこそ。	tarigdaa それは	ulingaa. よき人。	mindu[u]ləkkə われには	ulingaa. よき人。
	so[o]roḡee ようこそ	soroḡee. ようこそ。			
a[a]ja[a] よき	ananinubi わが年年は	či[p]pal すべて	pəisəi 消えうせり。	tuuxənee. ひとり身と	omokorom なり
	amḡabi[i]mali わが口のみ	kəsələə. ことばあり。			
a[a]ja[a] しあわせに	biččimbii. われはありき。	ulingaḡi 幸福に	biččimbii. われはありき。	xaalanda はるかなむかし	
	balḡinassaa 世にありしとき	ənəkəijəə 母上	amakaijaa 父上		

mumbeepə われらを	u[u]ŋi[i]gəčijjuu 育てしか	ŋui たが	u[ŋ]ŋi[i]xənijjuu. 育てしか。	ə[ə]nnəə 母上よ		
	dooljīroo. 聞きたまえ。	amakaa 父上よ	dooljīroo. 聞きたまえ。			
əri この	naa 地の	ojodunee 上に	əmœəkœə ひとり	dərəŋigəččee のこり	xaiddaa なにもかも	či[i]pal すべて
	əsi なし。	bee.	biiməli ただわれのみ	taanee. ならん。		

gə
さあ おわり

- 1) この歌は、歌い手が祖母から聞いたものだという。
- 2) naalbaa の naal は naril(人ら)のこと。

11. そりをつくってワールへ行こう

O.N.Semenova 口唱

waalu ワールの	naataini 地へ	ŋənnēeləpəə おれたち行こう,		
oksoobi となかいぞりを	anduwaáččee. つくって。			
waalu ワールの	naataini 地へ	ŋənəbuŋjee 行くのに	oksoobi となかいぞりを	andusi[i]wwee. おれはつくる。
xaikambadda なんでも	təəwələriwwee 積む	oksoobi となかいぞりが	anaga. ないんだ。	

12. おれも いっしょに 連れて行け

A.V.Semenova 口唱

xailaa どこへ	ŋənnēesuwəə[ə] あんたら行くのか	əə[ə] よー
xailaa どこへ	gənnēesuwəə[ə] ¹⁾ あんたら行くのか	əə[ə] よー

xailaa gənnəesuwəə[ə]¹⁾
 どこへ あんたら行くのかよー

baisai dauri[i]poo[o] oo[o]
 向こう岸へ わたしたち渡るの よー

siduxumbə gatanni[i]poo[o] oo[o]
 こけももの実を 摘みにわたしたち行くんだ よー

siduxumbə gatanni[i]poo[o]
 こけももの実を 摘みにわたしたち行くのよー

mimbeeddə orogdusoo[o] oo[o]
 おれも あんたら連れて行けー よー

biiddə ɣənnəeləmee[e] ee[e]
 おれも 行く よー

biiddə ɣənnəeləmee[e]
 おれも 行くー

(əlipəə oogdo) əlipəə o[o]rogdoo[o] oo[o]
 わたしたち連れて行かない よー

ugdapu ələptuxənee[e] ee[e]
 丸木舟が 一杯になったんだ よー

ugdapu daluptuxənee[e]
 丸木舟が 一杯になったのよー

vse
 おわり

1) 語頭の g は ɣ の言い誤りであろう。

13. 踊ろう 踊ろう¹⁾

M.S.Mikheeva 口唱

məurii məurii məuriilə[ə]k[kə]
 踊る 踊る 踊るんだ

joŋʒee joŋʒee joŋʒeelak[ka]
 腰を振る 腰を振る 腰を振るんだ

tawasai poŋʒee əsələmbə loop
 あっちへ ボンジェー とかげを ロープ

	tawasai	ponjee	udalamba	loop ²⁾
	あっちへ	ポンジエー	かえるを	ロープ
loop	loop	məurisəə		
ロープ	ロープ	踊ろうよ		
	məurii	məurii	məuriilək[kə]	
	踊る	踊る	踊るんだ	
bəjəŋŋəəri	xu[u]pi[i]du[u]mə[ə]ree			
くまと	戯れ			
	amba[a]ramjee	məurusəə		
	うんと	踊ろう		
məurii	məurii	məuriilə[ə]k[kə]		
踊る	踊る	踊るんだ		
	jojee	jojee	jojjeelak[ka]	
	腰を振る	腰を振る	腰を振るんだ	
amba[a]ramjee	məurusəə			
うーんと	踊ろう			
	məurii	məurii	məuriilək[kə]	
	踊る	踊る	踊るんだ	
jojee	jojee	jojjeela[a]k[ka]		
腰を振る	腰を振る	腰を振るんだ		
	tawasai	ponjee	əsələmbə	loop
	あっちへ	ポンジエー	とかげを	ロープ
tawasai	ponjee	udalamba	loop ²⁾	
あっちへ	ポンジエー	かえるを	ロープ	
loop	loop	məurusəə		
ロープ	ロープ	踊ろうよ		
	loop	loop	məurusəə	
	ロープ	ロープ	踊ろうよ	
amba[a]ramjee	məurusəə			
うーんと	踊ろう			
	məurusəə	məurusəə	məu[u]rusəə	
	踊ろう	踊ろう	踊ろうよ	
u[u]liŋga[a]ji	məurusəə			
じょうずに	踊ろう			

bəjəŋŋəəri xu[u]pi[i]du[u]mə[ə]ree
 くまと 戯れ

ərii ĵiin inəŋidu[u]
 こんなに ながい 一日じゅうを

ərii təəsi[i]puu
 ここに すわっていつづける

ʃappaŋŋooree doodu[u]nee
 天幕の なかで

aundakkooree doodunee
 丸小屋の なかで

sugbuŋŋəoree monima[a]ree
 さけの皮 つぶして

musinŋooree andumaree
 寄せもの つくり

maŋgaa goroo təəsipugəə
 ずいぶん ながく すわっているなー

ərii duxuddooree
 この 家に

məuree məuree məureelə[ə]k[kə]
 踊る 踊る 踊るんだ

ʃoʃʃee ʃoʃʃee ʃoʃʃeelak[ka]
 腰を振る 腰を振る 腰を振るんだ

amba[a]ramʃee məu[u]ruu
 うーんと 踊れ

məuruu məuruu məu[u]ruu
 踊れ 踊れ 踊れよー

gə
 さあ おわり

- 1) くま祭りの踊りの歌。踊りは女子が屋内で踊る。
- 2) これよりまえに歌った同じこの歌では、əwəsai poŋʃee əsələmbə loop, tawasai poŋʃee udalamba loop とあり、このテキストのはじめの tawasai は əwəwəi (こっちへ) の言い誤りであろう。この句は、帯の模様のとかげやかえるを (umuldu biini.), 地面へふり落とす (naatai tukkini.) ほどに踊るの意だという。loop はその落すさま。なお tawasai poŋʃee udalamba loop の第2例は、旋律の上で後半を欠いたような形となっている。

14. 客をもてなす歌

小川ハツ子 口唱

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

andaxasali[i]
お客さんがた

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

sorojee[e]
ごきげんよう

agdapsee
ありがとう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

nimərixəsu[u]
あなたがた訪ねて来られ

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

andaxasali[i]
お客さんがた

sorojee[e]
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

ba[a]ja[a]ma[a]ri[i]
ゆたかに

bissərisu[u]
お暮らしてください

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

ulinga[a]ji[i]
心をこめて

jaajjeepu[u]
わたくしたちは歌います

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

ulinga[a]ji[i]
心をこめて

məuri[i]pu[u]
わたくしたちは踊ります

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

ulinga[a]ji[i]
無事に

ŋənuussərisu[u]
お帰りください

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee
ごきげんよう

so[o]rojee[e]
ごきげんよう

以下削除

15. 子もり歌

小川ハツ子 口唱

bəəbəə ねんねんよ	nəgəni[i] ぼうや	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ
nəəčēetəi 小鳥と	gəi[i]mi[i] 競争して	bəəbəə ねんねんよ	
aami[i]du 眠りに	duulta[a]mi はいつて	bəəbəə ねんねんよ	bəəbəə ねんねんよ
amiččii おとうさんは	purən やまの	baaruni 方へ	ŋənəxə[ə]nii 行ったのよ
kəsilə[ə]mi[i] 安心して	auru[u] 眠りなさい	bəəbəə ねんねんよ	

16. 連れ去られた妻をとり返した話

M.S.Mikheeva 口述

goropčinne 昔の人が	anu えーとあれ	anu えーとあれ	aundau ¹⁾ 丸小屋の	dooduni 中に	biččinində いたんだと、
geeda 一つ	poodu. 所に。	anu ²⁾ えーとあれ	mamaŋulu 女房持ちが	duu ふたり	geedan ひとり
geedan ひとり	geeda ひとり	geeda ひとり	mamaŋulu ³⁾ 女房持ちが	duu ふたり	duunnee ふたり
əə さて	čooččeeri そうして	čari ⁴⁾ その	dooduni 内に	jeembači ⁵⁾ かれらの連れ合いを	əəktə. 女が。
gaattaači 連れ去りに来た、	duunnee. ⁶⁾ 二人の人が。	goi よその	goi よその	narisal 人らが	noomboči かの女らを
aundakkoori 自分らの丸小屋を	wəədəəčči のこして	čadu そこに	məgdəmbə そのまま	məətələəčči すてて、	čadu そこに
aundakkoori. 自分らの丸小屋を。	əə さて	čooččeeri そうして	ŋənəəččeeri 行って	ŋənəəččeeri 行って	ŋənuwəči かれらは帰った
ŋənuwəči 帰った	gaduwači. 連れて行った。	mapaluŋu ⁷⁾ 亭主が	mapaŋuči かれらの亭主が	isuwači 帰って来た、	
duktakkeeri. 自分の家へ。	mamaŋuči かれらの女房が	anaa. いない。	ulaalčidda かれらのとなかいたちも	anaa. いない。	

čipal gaduwači. xaičidda ojoskomboči čipal gaduwači.
 みんな もって行った。 なんでも かれらの家財を みんな もって行った。

əə čooččeeri xamarakkeeči ɣənəəččeeri xamarakkeeri ⁸⁾ ɣənəəči
 さて そうして そのあとをつけて 行って あとをつけて 行った,

čoočči poktokkeeči. ⁹⁾ ɣənuwəči poktokkeeči ɣənəəččeeri
 そして かれらの足跡に沿って。 かれらの帰った 足跡に沿って 行って

ɣənəəči. čooččeeri ɣənəəččeeri iigəči. anuwači.
 行った。 そうして 行って ある家へ入った。 あーした。

aaptuwači. čoočči muuluututəkki. muuluxəmbi ¹⁰⁾ geeda əəktə
 着いた。 そして 自分の水くみ場へ 水くみに行った, ひとりの 女(妻)が

muuluutučəkki ¹¹⁾. čoočči əəktə iindəxəni. xandamari
 自分の水くみ場へ。 そして 女は 家へはいりに行った。 「何しに

sindaxasoo. xandamari sindaxasoo unjini. sumbeepə
 あんたら来たの。 何しに あんたら来たの」 と 言う。 「あんたらを

waarillaa sugdəəkki narisal unjini jədu. ¹²⁾
 殺すでしょう, ならず 者らが」 と 言う, 「ここで。」

sumbeepə waarillaal əsi. xandamari sindaxasuwa unjini.
 「あんたらを 殺すでしょう, 今。 何しに あんたら来たの」 と 言う。

su sugdəəkki ¹³⁾ ambasal əsi xuriaččiči unjini.
 「ならず者の ばけものたちは いま 獲物のけもののおまつりをしている」 と 言う。

xaiwakka waagaččeeri bəjəŋɣəori xaiwa ¹⁴⁾ waagaččeeri
 何かを 獲って 自分らのくまを 何かを 獲って

xuriaččičinda čaa dukuddoori ¹⁵⁾. oi čooččeeri
 おまつりをしているのだと, その 自分らの家で。 さあ そうして

ii iigəči ¹⁶⁾ čala. ¹⁷⁾ ɣənəəči. čadu əttəuwəčči biččiči
 夫らは入った, そこへ。 行った。 そこで 見まわりをしたうえ いた,

čadu. tari əəktə uččini. əjjesu sindaa əsi.
 そこに。 その 女は 言った。 「あんたら来ないで, 今は。

sumbeepə waarillaa. səksə səksə biini. biini
 あんたらを やつらは殺すでしょう。 晩 晩 います。 やつらはいます」 と

uččini. səksəə sindassarisu. sindauri beeni səksə sindassaari
 言った。 「晩に あんたら来て。 来る ならば 晩に 来て」 と

unjini. səksəə daa. əsi bii ɣənupee dajjilami unjini.
 言う。 「晩 よ。 今 わたしが 戻れば 隠すつもりです」 と 言う。

ləkkəlbəči ləkkəlbəči dajjilami¹⁸⁾ xuriaččiduči.
 「やつらの矢を やつらの矢を 隠すつもりです、 かれらがおまつりしているときに。」

čooččeeri¹⁹⁾ anuxani taan. iixəni tari. anuxani. iiduxəni.
 それから あーした だろう。 入った、 かの女は。 あーした。 戻って入った。

duktakki ɲənuxəni. čoočči xəmə²⁰⁾ xəmə biini. əsini
 自分の家へ 戻った。 そして だまって いる。 かの女は

aldurree xaiwadda. čoočči čoočči²¹⁾ geeda nari unjini.
 知らせない、 なにも。 そして そして ひとりの 人が 言う。

geeda əəktə mama mama unjini²²⁾ əəwu čootči kučigəmbi
 ひとりの 女が 妻 妻が 言う。 さて そして 自分の小刀を

dapaáčči kučiləxənee tawakki. tawakki kučiləxənduni²³⁾
 取って 刺した、 たき火のなかへ。 火のなかへ 刺したときに

čis sikkəxəni tawani. suɲnee unjini. suɲnuuli
 パツと音をたててはじけた、 たき火が。 「ばちが当たるよ」と 言う。 「ばちが当たることは

anaa əsi unjini tari nari²⁴⁾ suɲnuuli anaa əsi
 ない、 今は」と 言う、 その 人が。 「ばちが当たることは ない、 今は」

tari. əjje undə. əsi čii sinjeellaal unjini.²⁵⁾
 その女が。 「言わないで。 今 すぐ やつらは来るでしょう」と 言う。

sinjeellaal²⁶⁾ tari narisal. əə čooččeeri xuraačigaččeeri
 「やつらは来るでしょう、 あの 人ら。」 さて そうして おまつりをして

duxuddoori ooččeeri čooččeeri dəptuwəččeeri čawa bejəmbə²⁷⁾
 かれらの家で やって そうして 食べ それを くまを

waagatči bitčini taan. xaigatijjuu čawa waagačijjuu.
 獲って いたん でしょう。 何してたものか それを 獲ってたものか。

oi čooččeeri diligečee²⁸⁾ tari dəpčiduči bəičixənee
 さあ そうして その かれらの食べているとき しのびよった、

tari nari. gə bəičigəči. bəičigəči. bəičigəččeeri
 その 人ら(夫)は。 さて かれらはしのびよった。 しのびよった。 しのびよって

čaɲoori garpanačiči. čooččeeri garpanaxaččeeri²⁹⁾ geeda geeda
 自分らの相手を なんども射た。 そうして なんども射て ひとり ひとり

geedaduma³⁰⁾ waagači. geedaduma duktakki tutaxani tutami
 ひとりの方を かれらは殺した。 ひとりの方は 自分の家へ 逃げた、 逃げて

ɲənəxəni xailakka. tutaxani aundau xopsii³¹⁾ saɲakkeeni nəəgəčči
 行った のだから。 やつは逃げた、 丸小屋 穴から 出て

čootči	geedaduma	nari	xasačini	čaŋŋooni	čaa čawa ⁴⁰⁾
そして	(夫の)ひとりの方の	人は	追った,	かれの相手のやつを	その それを
narree.	xasačini	taan	waanɖaxani	xailaxa ⁴¹⁾ .	xasačini xamarakkeeni.
人を。	追った	だろう,	殺しに行った	のだから。	追った, あとから。
čooččeeri	iiduwətči	iiduxəni.	duktakki	əkkəlɓə	gaduxani
そうして	戻って入り	戻って入った。	自分の家へ	女らを	連れ戻した,
duu	əəktə. ⁴²⁾	geeda	nari	ŋənuxəni	duktakki,
ふたりの	女を。	(夫らの)一	人は	戻った,	自分の家へ,
tari	duktakki	ŋənuwəčči.	čadu	biččičee.	ŋənuwəččeeri
その人が	自分の家へ	戻って。	そこに	かれらはいた。	かれらが戻って
biiduči	isuxani	nariŋuči.	xaakpaččimbi		
いるところに	帰って来た,	かれら(夫ら)の一人が。	「おれは追いついた」	と	
unjini.	waaxambi	noomboni.	tari	ələ.	
かれは言う。	「おれは殺した,	かれ(ならず者の一人)を。」	その話は	終り。	
čalaa	biini.				
それまでで	ある。				

この話は 1991 年サハリン北部の Val 村でウイлтаの婦人 M.S.Mikheevaさんから録音採録した。

- 1) anu と言いかけ, 改めて aundau と言った。
- 2) anu mamaŋulu から duu əəktə までが, どんな意味を表わすかは, はなはだあいまいである。この話は一つの家に同居する二組の一夫一妻の話とみるが, あるいは一夫一妻とは異なる関係にある男女らが一つ家に住んでいたのかは, 二三人のウイлта婦人にもこの録音を聞いてもらったが, 明快な答は得られなかった。
- 3) lu のつぎに li のような音が不鮮明に聞こえる。複数を示す接尾辞か。
- 4) 指示代名詞 tari(それが)やこれと同根の語の頭音の t [t]は, 対格の čawa(それを)などの斜格形の頭音と混同して č [tʃ]と発音されることがある。
- 5) jeembači と noomboči の間に短く一語あるが, その語がなにかはいまだ不明。なお, tari dooduni とそのあとの jeembači 以下との文法的関係が, 不明であるが, その語がわかれば解けるかもしれない。
- 6) goi goi の前に一語あるが, 小声で聞きとりにくい。duunnee(二人)か。
- 7) mapaluŋu は言い間違い。
- 8) ここの xamarakkeeri(自分らのあとを)は xamarakkeeni(かれらのあとを)の誤り。
- 9) ŋənuwəči の前に[j]のような音が聞こえるが不鮮明である。
- 10) muuluxəm- には第 1 人称単数語尾 -bi が付くので, ここは muuluxəni(-ni は第 3 人称語尾)であった方があとに自然につづく。
- 11) muuluutučəkki の -čəkki は muulututəkki の指向格語尾 -təkki の t が č に発音されたものであり, 注 4 も参照。
- 12) jədu と sumbeepə の間に xo のような音がある。
- 13) su と言いかけて, 改めて sugdəəkki と言っている。
- 14) xaiwa のつぎに l のような音がある。

- 15) ただし dukuddoori の k は明瞭には聞こえない。
- 16) ii と言いかけて、改めて iigəči と言っている。
- 17) čala と ɣənəəči の間に e の音がある。
- 18) dajjilami のあとに d ではじまる音連続がある。
- 19) čooččeeri と anuxani の間に on のような音がある。
- 20) xəmə のまえにすでに一回 xəməらしい小声が聞こえる。
- 21) čoočči のあとに音があり、čoočči のくり返しだろう。
- 22) geeda nari (ひとりの人が)をəəktə(女が), さらに mama(妻が)と言い改めている。
- 23) čis のまえに小さく[te]の音がある。
- 24) tari nari は、刺した人(女)をさす。
- 25) unjini と sinjeellaal の間に音があるが、言語音ではないだろう。
- 26) sinjeellaal と tari の間に音があるが、言語音ではないだろう。
- 27) bəjəmbə は、はじめの b も明瞭には聞こえない。ここの語意は広くけものであるかもしれない。
- 28) ここの語がどんな語か同定できていない。
- 29) garpanaxaččeeri(かれらがなんども射て)の x の音は注意に値する。
- 30) geedaduma がなかなか口に出ず、geeda をくり返したあとその語を発している。ここでは geedaduma は形容詞であって、名詞の対格形ではないとみる。つぎに narree のような対格の名詞が落ちてしているとみられる。
- 31) ここにある語の語形・意味はまだ確定できない。
- 32) əčči のような音のくり返し。擬態語か。
- 33) tari nari と言ったのを言い直して tari əəktəと言っている。
- 34) gadu と言いかけて切り、改めてその語の全体を発音している。
- 35) gadu gadu と二度言いかけて切り、改めてこの語の全体を発音している。
- 36) pulim(歩いていて)は、聞き手のウイльтаは、pəlim(急いで)と言った方がいいと言う。
- 37) 聞き手のウイльтаたちは、このような前後関係では oččini(なった, した)とは言わないと言う。
- 38) ɣuiddə(だれも)は、聞き手のウイльтаによれば、対格形の ɣuiwəddə(だれをも)を使うところであると言う。
- 39) čawa(そこを)のつぎに小声で ki の音がある。これは čawa を改めて直して言った čakki(それに沿って)の čak が聞こえず、そのあとの ki だけが聞えるのであろう。
- 40) čaa(その)を言い替えて čawa(それを)と言ったが、さらに čaa につなぎ直して narree(人を対格形)と言ったのだろう。
- 41) xailaxa と聞こえるが, xailakka のことだろうか。なお、聞き手のウイльтаは、普通こうした文脈では waɣdaxani taan, xaixanijjuu(かれは殺しに行ったろうか、どうしたろうか。)と言うと言った。
- 42) geeda の前に či のような音が小さくある。